

### 1 (3) 守山八幡宮と例大祭

2 守山八幡宮の例大祭は、毎年10月10日  
3 に近い日曜日に行われている。昭和16年  
4 (1941)刊行の『静岡県神社志』に、例大祭  
5 開催について記述されている。守山八幡宮  
6 の例大祭では、午前中に子ども神輿の巡行  
7 が行われ、その後、昭和9年(1934)に建て  
8 られた舞殿において「しゃぎり」の演奏が  
9 行われる。舞殿が建てられる以前は、毎年  
10 青年団によって舞台がしつらえられていた。  
11 しゃぎりとは、祭に際して演奏される、太  
12 鼓・笛・摺り鉦を用いたお囃子の一種で、  
13 三島大社を中心として、伊豆半島の各地に  
14 伝承されている。韮山地域のしゃぎりは「北  
15 条囃子」と呼ばれている。守山八幡宮で奉  
16 納されるしゃぎりの曲目には、「荷崩し」  
17 「昇天」<sup>しょうてん</sup>「屋台」などがある。

18 しゃぎりの演奏後、同じく舞殿において、  
19 氏子の中から選ばれた若者たちによって、  
20 三番叟が奉納される(三番叟については、第2章6を参照)。



例大祭前夜の子どもしゃぎり演奏



子ども用の神輿

### 22 (4) 旧下田街道を巡行する八坂神社の神輿

23 毎年7月上旬に行われる、四日町地区の  
24 鎮守である八坂神社の例大祭では、2基の  
25 神輿が巡行するが、その際、寺家地区の守  
26 山八幡宮に渡御する。神輿は、守山八幡宮  
27 の参道に入ると隊列を整え、走って八幡宮  
28 へと到達する。これは「神輿駆け」と呼ば  
29 れ、四日町地区では、元和年中(1615～  
30 1623)に榊原越中守が公認したものと伝え  
31 られている。また寺家地区の伝承では、八  
32 坂神社の祭神は、守山に祀られていた山の  
33 神を勧請したものとされおり、守山八幡宮と八坂神社の深いつながりが窺われる。

34 守山八幡宮に到着すると、八坂神社の神輿と氏子たちは神職による祈祷を受け、そこから旧下田街道を北上して光照寺の門前を通り、守山八幡宮の宮司家である榎家敷地内に鎮座する御幣王子社にも渡御する。その後さらに旧下田街道を北上、成福寺の門前を経て八坂神社へと還御する。

38 八坂神社の神輿が守山八幡宮に渡御するという行事は、狩野川の水難を避けようとする



守山八幡宮に向かう神輿

1 祈りの表れという面(第2章2を参照)と、北条の里の総鎮守である守山八幡宮への信仰を  
 2 示す神事という面、両面を備えた神事であると言えよう。

3

4 図2-3-1 風致範囲拡大図

5

6

7

8

9

10

11

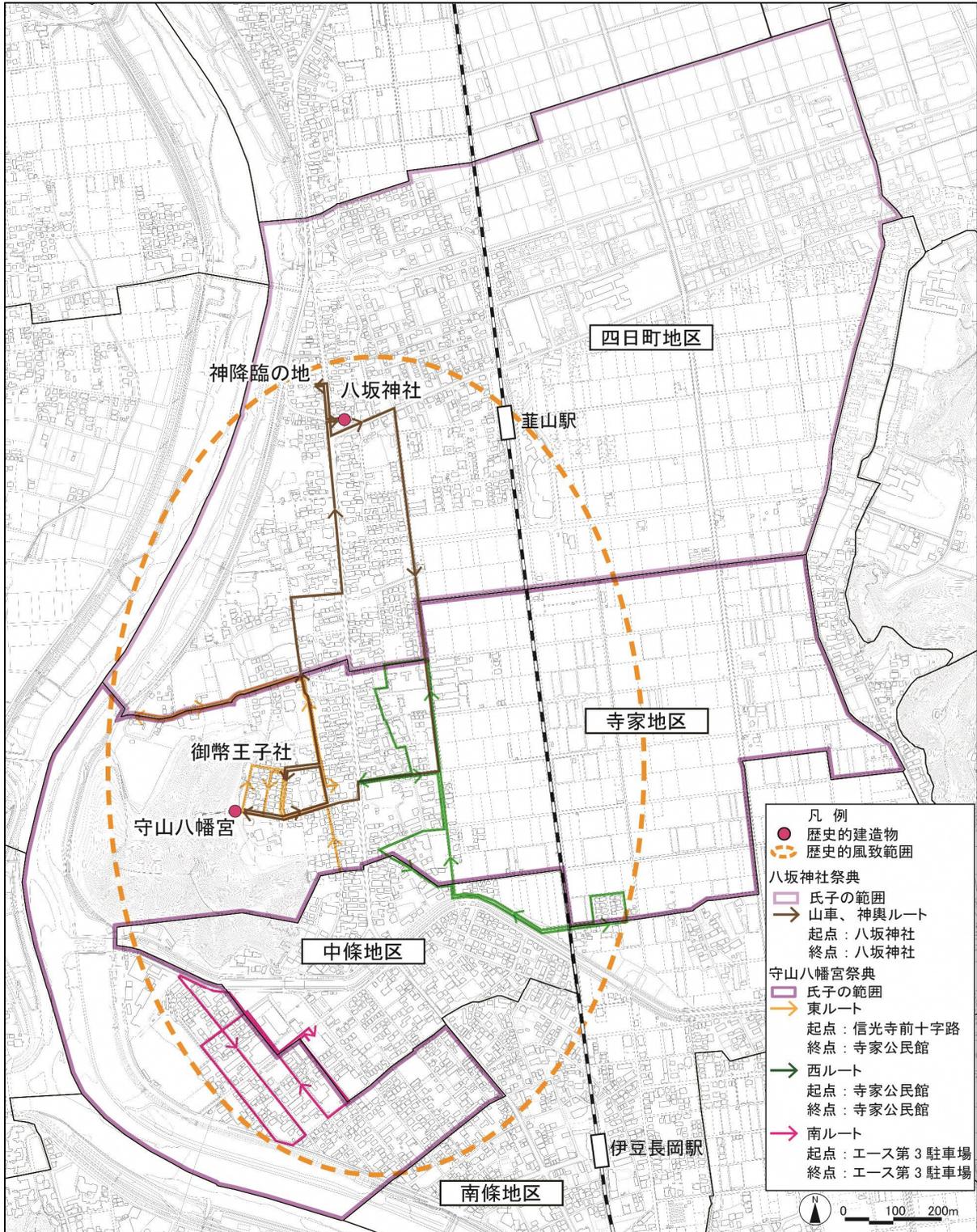
12

13

14

15

16



## 1 (5) 眞珠院と八重姫伝説

2 八重姫とは、伊東庄(現伊東市)を本拠地と  
3 した平安時代末期の武将伊東祐親すけちかの娘で、一  
4 名を静ともいった。八重姫は、祐親が大番役  
5 のため京に赴いていた間に、伊豆に配流とな  
6 っていた源頼朝と恋仲になり、男子千鶴丸を  
7 もうけた。京から戻ってきた祐親はそれを知  
8 って激怒し、子を川に沈めるとともに頼朝を  
9 討とうとしたため、頼朝は北条氏の館に難を  
10 逃れた。祐親は八重姫を別の人物に嫁がせた  
11 が、八重姫は失意のあまり、狩野川の淵に身  
12 を投げて命を絶ってしまったと伝えられている。



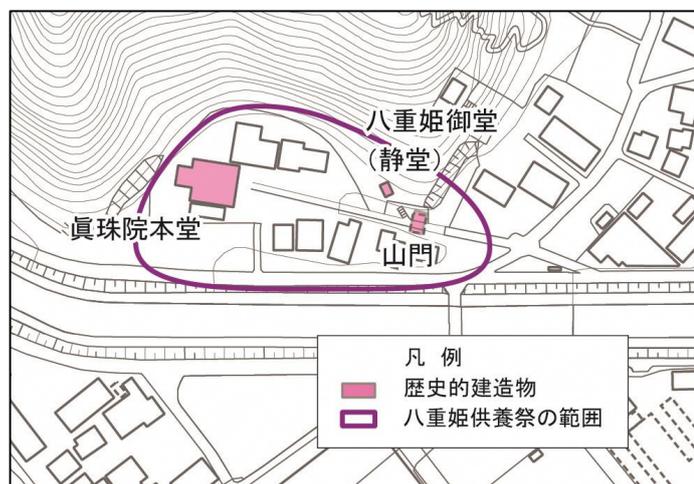
八重姫供養祭

13 『増訂豆州誌稿』によれば、八重姫を供養する堂宇は、かつて眞珠院の北に所在した満  
14 願寺にあったが、慶応3年(1867)に眞珠院に移されたという。八重姫への供養は、満願寺  
15 から眞珠院に受け継がれ、今も毎年4月の第2日曜日に「八重姫供養祭」が行われている。  
16 眞珠院には、昭和28年(1953)頃撮影された、八重姫供養祭の写真が現存している。狩野  
17 川台風により眞珠院一帯も大きな被害を受けたため、供養祭も一時休止されていたが、昭  
18 和50年代初頭に再開され、今日に至っている。

19 供養祭では、眞珠院住職による読経が行われ、縁のある団体(伊東市文化財史蹟保存会、  
20 女塚史跡保存会等)のほか、一般の  
21 参詣者も含めて200人ほどが参加。  
22 地元婦人会による模擬店や餅撒き  
23 なども実施されている。

24 八重姫御堂については、女性参  
25 詣者が自ら造った小さなはしごを  
26 供える風習がある。これは、悲恋  
27 の後にその命を絶った八重姫を不  
28 幸な女性の守り神として捉え、願  
29 い事をするという信仰から行われ  
30 ているものである。

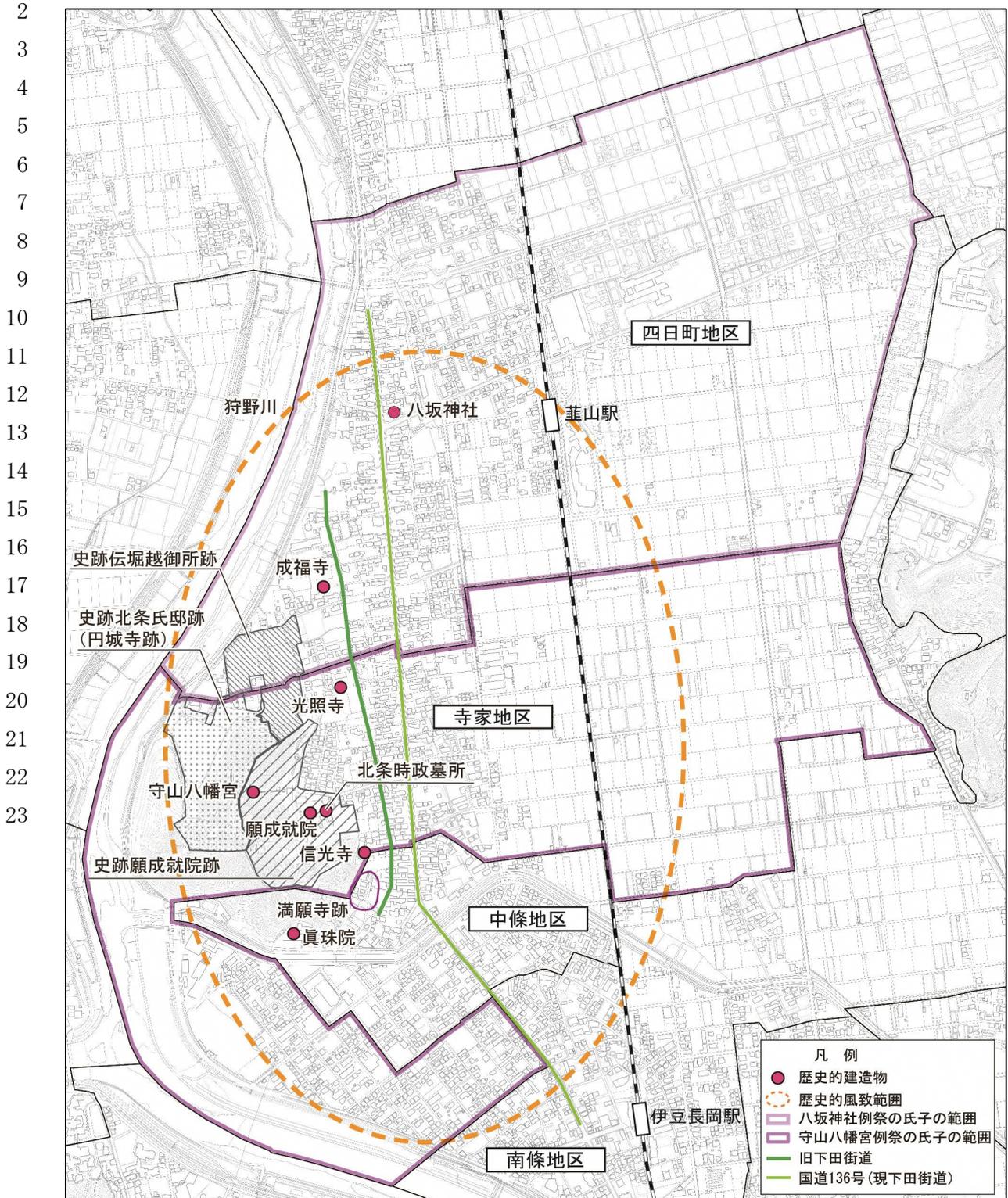
図2-3-2 八重姫供養祭の範囲



## 31 (6) まとめ

32  
33 これまで見てきたように、北条の里と旧下田街道には、中世以来の歴史が重層的に集積  
34 している。それだけでなく、守山と守山八幡宮をはじめ、願成就院、眞珠院、信光寺、光  
35 照寺、成福寺といった、信仰の拠点が集中しており、古い社殿や本堂などの歴史的建造物、  
36 仏像や中世の石造物、今日まで続く祭礼や風習とともに、豊かな歴史の息吹を今に伝える、  
37 維持向上していくべき良好な歴史的風致を形づくっている。

1 图 2-3-3 歴史的風致範囲図



## 【コラム 守山中世史跡群】

守山を中心に展開する三つの史跡は、それぞれ鎌倉時代から室町時代にかけての日本史上の画期に関わる重要な遺跡であり、相互に関連を持っていることから、「守山中世史跡群」と総称されている。

### 史跡北条氏邸跡(円成寺跡)

伊豆国蛭ヶ小島(四日町に比定地がある)に配流された源頼朝は、北条政子と出会い、北条時政の後ろ盾を得たことで平家打倒の兵を挙げ、最初の武家政権である鎌倉幕府を開くに至った。つまり、守山西麓の谷あい位置する史跡北条氏邸跡(円成寺跡)は、まさに日本の中世が始まった場所である。また、鎌倉幕府滅亡後には、北条高時の母覚海円成が円成寺を開き、北条氏の菩提を弔った場所でもある。円成寺は、室町時代には伊豆国守護である山内上杉家の庇護を受けた。その間、上杉氏の女性が歴代の住持となるなど、繁栄したことが知られている。

史跡北条氏邸跡(円成寺跡)については、これまでの発掘調査で鎌倉時代の多数の建物跡群や、円成寺を構成する建物とみられる礎石建物跡や庭園遺構などが発見されており、次第に往時の様相が明らかになりつつある。



史跡北条氏邸跡(円成寺跡)

### 史跡願成就院跡

守山の東麓に位置する願成就院は、北条時政が源頼朝の奥州征伐戦勝を祈願して文治5年(1189)に建立したと『吾妻鏡』にある。この寺は北条氏の氏寺でもあり、鎌倉時代には北条氏によって度々堂塔の建立が行われるなど、隆盛を誇った。境内は現在よりもずっと広く、大きな池や庭園がある、同時期の寺院に共通した「臨池伽藍」様式の寺であったと考えられている。



史跡願成就院跡

これまでの発掘調査により、北条時政が承元元年(1207)に建立した「南塔」と見られる塔の基壇等の遺構が発見されている。発掘調査によって遺構が確認されたところと、現在も残る願成就院の境内や背後の山(守山東側斜面)が、史跡願成就院跡に指定されている。

## 1 史跡伝堀越御所跡

2 史跡伝堀越御所跡は、守山の北側  
3 に、史跡北条氏邸跡(円成寺跡)と接  
4 するように所在している。堀越御所  
5 とは、室町幕府の関東支配を任され  
6 た堀越公方の館があった場所である。  
7 本来、室町幕府の関東支配は、鎌倉  
8 府を中心に行われていたが、15世紀  
9 前半以降、鎌倉公方と幕府の対立が  
10 激しくなり、関東は戦乱状態とな  
11 った。そのため、時の将軍足利義政は、  
12 仏門に入っていた異母兄政知を還俗  
13 させ、幕府による関東支配を回復す  
14 べく派遣した。政知は、当初鎌倉へ  
15 入ることを目指していたが、関東の  
16 戦乱が激かったことから鎌倉入りは  
17 適わず、守山北側の「堀越」の地に  
18 拠点置くこととなった。

19 堀越に居館を築いたことから政知  
20 は「堀越公方」、その居館は「堀越  
21 御所」と呼ばれるようになった。居  
22 館の規模や配置は明らかになってい  
23 ないが、これまでに実施された部分  
24 的な発掘調査によって、遣り水や滝  
25 口を配した池の存在が確認されてい  
26 る。また、茶の湯に関連した出土遺  
27 物が見られるなど、堀越御所は、京  
28 風の雅やかな庭園を持つ館であった  
29 と考えられている。

30 政知は、鎌倉へ入ることができな  
31 いまま延徳3年(1491)に病死し、跡

32 目争いの後に息子茶々丸が堀越公方の座を継いだ。明応2年(1493)、北条早雲  
33 (伊勢新九郎盛時・宗瑞)に攻め込まれ、滅亡することとなった。早雲はその後伊豆国を  
34 平定、関東に進出して戦国大名北条氏の基礎を築いた。この地は、関東における戦国時代  
35 の幕開けを告げる場所となったのである。



史跡伝堀越御所跡

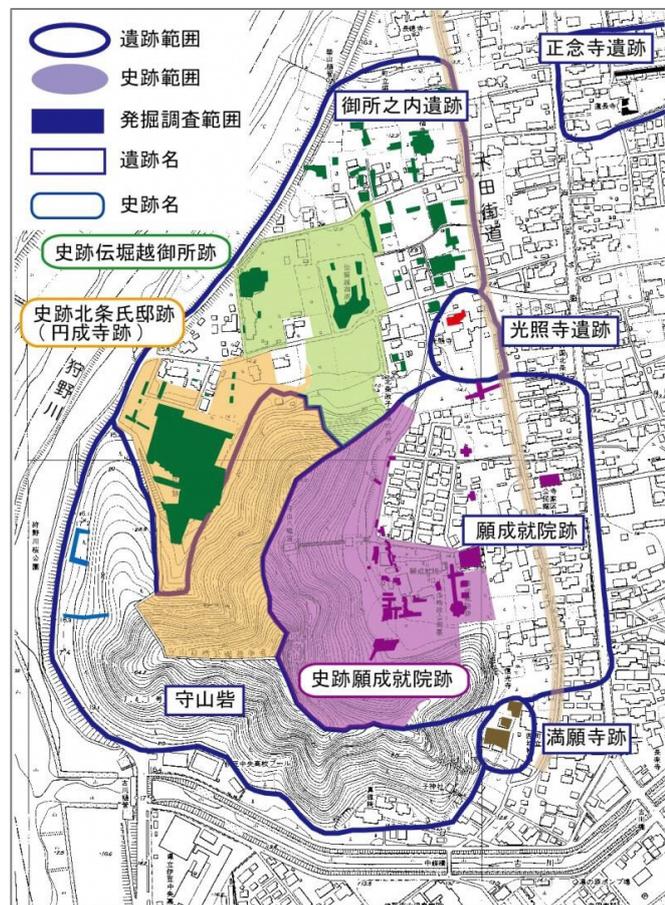


図2-3-2 史跡指定範囲図

ほうじょうそうらん